



しぶたに洋子



青森市議会議員 あおもり令和の会

しぶたに 洋子

昨年11月に市議会議員に任命いただき、早くも1年が経とうとしております。地域の皆様には、日頃よりご支援ご協力をいただいておりますことに心から御礼を申し上げます。

さて、9月に行われました令和3年第3回定例会 一般質問及び決算特別委員会の内容をご報告させていただきたく、第4号のお便りを発行致しました。

市議会議員としてみなさまの声を市政へ届け地域の下支えとなれるよう、より一層努めて参ります。

## 学校教育について

今年度、荒川中学校では学区の小学校と連携し、児童生徒及び地域住民が一緒になって避難訓練を行うなど、いろいろ予定があると伺っておりますが、子ども達が地域を見詰め直すことで、地域の問題に気づき、安全安心な荒川地区のまちづくりについて考え、行動していく精神を育むことが可能になるなど、教育効果が高い取組として期待していききたいところです。地域住民が、教育活動に関わることで、学校地域の双方に大きな恩恵が生まれる。常日頃から考えておりますが、全ての学校にこのような地域と連携した取組が波及していくことを1番に望みます。そこで、質問させていただきます。

### Q1 市の小中学校における地域と連携した教育活動について、具体的にお示しください。

#### 油川小学校の事例

地元の商店会が主催する、学区の主要道路沿いにかかしを設置する活動において、児童がかかしの制作や俳句づくりに取り組むなど、油川中学校区のまちづくりに学校と地域が一体となって取り組んでいます。また、甲田中学校では、生徒が学区内の各町会と共同で公園や通学路の清掃活動にも取り組んでいます。

#### コミュニティ・スクールについて

学校の運営方針や教育課程の編成、教職員の任用等に保護者や地域の考えを反映させる仕組みである学校運営協議会を設置し、学校と一体となって教育活動の充実を図っています。

現在は8中学校区、中学校8校、小学校20校の合計28校がコミュニティ・スクールに指定されています。

東中学校区・油川中学校区・筒井中学校区・浦町中学校区  
戸山中学校区・北中学校区・三内中学校区・浪岡中学校区



市内各小中学校において、積極的に保護者や地域と連携した教育活動に取り組んでいます。

### Q2 小中一貫校で行われている、地域を学ぶ学習の内容について、お示しください。

#### 三内中学校区の小学校

世界文化遺産に登録された三内丸山遺跡についての特色や魅力を学び、中学校では小学校で学んだことをもとに、修学旅行で遺跡をPRしたり、インターネットで世界に発信したりする活動に取り組んでいます。

#### 北中学校区の小学校

地域の水産振興センター漁業組合の協力のもと、海産物の商品加工体験を通じて、身近な山や海が豊かな環境を作り出していることを学び、中学校では小学校で得た漁業の知識に加え、魚網を編む体験を通じ、漁業が地域に果たす役割について学んでいます。

小中一貫校においては、地域の特色や住民の願い等も踏まえ、小学校と中学校で共通のテーマを設定し、子どもの発達段階に配慮しながら地域を学ぶ学習を進めています。

## 新型コロナウイルス感染症対策について

### Q1 12～24歳のワクチン接種が始まり、接種による副反応を心配する声が多く寄せられています。

若年層の接種について、リスクと有効性をどのように周知していますか？

ワクチン接種にあたって気をつけることなどを記載したパンフレット「新型コロナワクチンについて」を接種券とともに送付し、副反応に関する情報を周知しています。さらに、小中学生の保護者に対しては、学校を通じて、16歳未満の方が接種を希望される場合は、原則として保護者の同伴が必要であり、個別医療機関での接種をお願いすることなどを記載した「新型コロナウイルスワクチン接種のお知らせ」を配布し、ワクチン接種に関する情報を正確にわかりやすく周知しています。

### Q2 個別接種及び集団接種におけるもったいないバンクの対象者は？

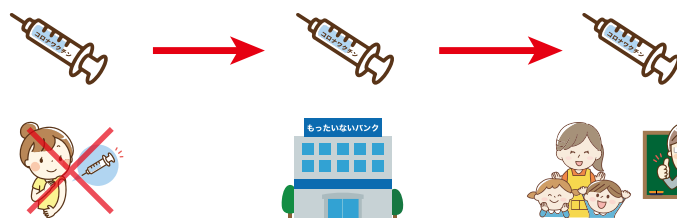
#### はじめに もったいないバンクとは？

ワクチン接種の当日キャンセル等により、余剰ワクチンが発生した場合に、貴重なワクチンを無駄にすることのないよう速やかに代替接種できる方を斡旋する制度のこと。

集団接種の対象者
65歳未満の集団接種従事者
民生委員、児童委員
放課後児童支援員
小中学校教職員
避難所配置職員
消防団員及び陸上自衛隊員

個別接種の対象者
保育所、認定こども園 幼稚園、児童福祉施設職員
放課後児童支援員
小中学校教職員

※個別接種、集団接種のいずれも青森市に住民登録を有する方が対象となります。



予約キャンセル もったいないバンク 個別接種及び集団接種の対象者へ

### Q3 もったいないバンクに登録した方の接種は完了していますか？ 完了した場合の次の接種順位は？

もったいないバンクは、あくまでも余剰ワクチンが発生した際に、貴重なワクチンを無駄にすることのないよう速やかに代替接種者を選定することを目的としています。そのため、個別医療機関での接種や職域接種を優先しており、当該制度による代替接種によらずにワクチン接種を受けられている方も相当程度いるものと認識しています。

#### もったいないバンクに登録しているワクチン未接種者(8月末時点)

保育所、認定こども園及び幼稚園等の従事者	40人	放課後児童支援員	52人	小中学校の教職員	370人
----------------------	-----	----------	-----	----------	------





## 経済対策について

### Q1 青森市プレミアム付商品券事業の購入実績は？

令和3年5月1日時点で  
青森市全市民276,898人のうち、223,569人分を販売  
(住民基本台帳に記録されている方)  
販売率は80.7パーセントとなっています。

### Q2 現時点で利用店舗が換金した額は？

8月31日時点で5回の換金を終え、  
総額20億4,179万円を各店舗へ送金



### Q2 事業継続支援緊急対策事業各補助金の交付決定店舗数及び交付決定額の現状は？

	交付決定店舗数	交付決定額	概要
家賃支援	1,540件	2億1,270万8千円	店舗等の賃料月額8割相当額の2か月分を、一事業者当たり3店舗等分60万円を上限として助成
自己所有物件事業者支援	448件	3,932万2千円	令和3年度に課税された店舗等に係る固定資産税の8割相当額の算定基礎額2か月分を、一事業者当たり3店舗等分60万円を上限として助成
感染症対策設備機器等導入支援	279件	2,181万1千円	事業所・店舗において、コロナ対策に要する経費の8割相当額又は10万円のいずれか低い額を、一事業者当たり3店舗等分30万円を上限として助成

市民の方々、事業者の方々にも幅広く活用していただいているものと思います。

## 除排雪作業のデジタル化について

### Q1 これまで市が運用している除排雪車運行管理システムの実績・効果は？

#### システムの導入経緯・実績

GPS端末を利用した除排雪車運行管理システムを平成18年度に導入、青森地区の主要道路の除雪情報をウェブサイト上で公開してきました。平成29年2月から「除雪業務の公開機能」に加え「除雪業務機能」「雪捨て場管理機能」を備えた新たな除排雪車運行管理システムを導入しています。

【除雪情報の公開機能】GPS端末から取得した除雪車の位置情報を地図上に展開する機能で、青森地区の幹線・補助幹線91路線に導入するとともに、国道、県道の除雪情報も市HPに公開しています。

【除雪業務機能】GPS端末に記録した位置と稼働時間を集計、委託料の算出や作業日報の作成などを行う機能として、幹線・補助幹線91路線に導入し、把握時間が短縮されるなど、除排雪作業管理の効率化を計っています。

【雪捨て場管理機能】除排雪事業者が排雪の際に使用する雪捨て場の情報を管理する機能で、市職員の事務軽減、夜間の除排雪作業に向けた準備体制の迅速化に効果を上げています。



委託料算出  
作業日報作成  
雪捨て場の管理など

### Q2 除排雪体制強化プロジェクトの中で、生活道路の除雪情報の公開について検討しているようだが、公開方法は？

公開方法の詳細は現在検討中ですが、生活道路の除雪情報については、幹線・補助幹線のような路線ごとの公開ではなく、工区ごとの除排雪作業状況の公開を考えています。

昨年、市民から「いつ除雪に入るのか」などの除雪情報に関する要望が多かったことから、今年度は、生活道路などの除排雪作業の状況を公開するためのシステム開発、AIやICTなどの新技術等を活用した除排雪管理業務の効率化・高度化を図るため、除排雪管理業務高度化・効率化事業に取り組んでいます。

### Q3 少子高齢化等に伴い、今後、除排雪業務の効率化を図っていくべきと考えるが、市の考えは？

少子高齢化時代を迎え、財政負担や除排雪作業員の確保、技能の継承が課題となっており、除排雪業務における効率化・高度化の体制を構築することが必要だと認識しており、今年度、実証実験を行います。

#### 道路状況の把握の効率化・高度化

3Dマップにより堆雪ボリュームを把握、渋滞の原因となる堆雪ボリュームを解析し、除排雪作業指示のタイミングについてAI化の可能性を検証します。

また、ライブカメラによる道路状況及び交通状況の把握に関して検証します。

#### 「除排雪出動指令」の効率化・高度化

現在、市から除排雪事業者へ電話やFAXにより行っている出動指令の発出について、デジタル化による効率化・高度化の実証実験を行うこととしています。

### Q5 実施に当たってモデル地区や除排雪事業者へどのように周知していきますか？

モデル地区の地域住民に対しては、チラシの回覧、モデル地区の除排雪作業を担当する事業者に対しては、町会・除排雪事業者・市の3者が除排雪情報を共有するために開催する除排雪調整会議における周知、また、市民に対する周知方法は、市ホームページや広報あおもりへの掲載を予定しています。

実証実験については、実験後の結果を検証するためにも、実証実験モデル地区の地域住民や実際に除排雪作業に従事する除排雪事業者から意見を求めることも想定しており、事前に実証実験の実施について周知しておく必要があると考えています。

### Q4 実証実験を行う実施地区は？

#### 実施地区：松原・堤地区

実証実験を行った取組を今後、市内広域に展開していくことを想定し、複数の特徴を有した地区を選定することとしました。実施地区は、青森市民病院の周辺地域となっており、地域内には中学校や住宅街があることから、緊急車両の通行ルート確保はもちろん、円滑な道路交通の確保に向けた解決策を検討する上で最適なモデル地区であると考えています。

## 米価下落対策に係る要望

あおもり令和の会として、令和3年9月27日、市へ要望書を提出しました。

国内のコメ消費量の減少及び新型コロナウイルス感染症拡大の影響による外食向け業務用米の需要低迷などにより令和3年産米の生産者概算金は「つがるロマン」「まっしぐら」とともに8千円台前半となり、平成26年産米を上回る過去最大値下げ幅と

なりました。このままでは、生産意欲を失って離農者が出てくる恐れがあるほか、来年の生産に要する費用を工面できず、農業経営に行き詰ってしまうことが懸念されます。つきましては、稲作農家の生産意欲を損な

わないためにも、次に掲げる事項について、特段のご支援、ご配慮を賜りますようお願いいたします。

1 国、県及び他自治体等の動向に注視し積極的に情報収集に努めること。

2 関係機関・団体と連携して、早期に支援策の検討を進めること。

3 稲作農家の生産意欲を維持できる対策を講ずること。

引き続き、事業者に対する必要な支援・減免を実施するよう求めて参ります。